

ユネスコ創造都市ネットワーク2021年国内公募申請書（様式1）

1. 申請都市(自治体)名

臼杵市

2. 申請分野(本ネットワークの7つの分野から1つを選択し記入)

食文化

3. 申請者氏名・所属

(ふりがな)		責任者職名	
申請責任者氏名			
(ふりがな)		担当者所属	
申請担当者氏名			
住所			
電話	(定時外連絡先(緊急連絡用))		
FAX		E-mail	

※ユネスコApplication Form及び「ユネスコ創造都市ネットワーク2021年新規加盟申請にかかる国内選考基準」(別紙1)「2.選考基準(2)選考に当たって考慮する事項」を参照し、以下の各欄に記入してください。

4. (1)本ネットワークへの申請背景(動機)、本ネットワーク加盟が自都市にもたらすと見込んでいる効果、国際的な発展のビジョン、戦略、施策について記入してください。(600字以内)(Application form 6,7,8 選考基準①)

臼杵市は、地質と地形に恵まれ、きめ細やかでまろやかな柔らかい水が豊富である。この水が重要となる醸造業が1600年頃から始まり、人々が伝統を守りつつ、改良を加えてきた味噌・醤油・酒造りや、質素倹約の中で知恵を絞って生まれた郷土料理など、多様な食文化が発展してきた。味噌・醤油の生産規模は日本屈指を誇り、ほとんどの酒蔵が日本酒と焼酎の両方を生産するとともに、地元農産物を原料としているという特色を持つ。

こうした長年、市民が大切に培ってきた食文化に加え、近年、食による健康増進のため、持続可能な食と農業に関する条例を制定し、有機農業や地産地消も推進している。例えば、日本で唯一、市が草木等を発酵させた完熟堆肥を生産し、生命力のある土づくり環境を整備することで、生産者、消費者ともに食の重要性について理解を深めている。

食の多様性・持続性を高める臼杵の活動は、SDGs目標2と14、及び醸造・発酵産業による目標8と9を軸にSDGs目標11「持続可能な都市・コミュニティ」やその他の目標に貢献しておりユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)の目的と一致する。

食文化でのUCCN加盟は、環境保全型農業・水産業と醸造・発酵産業、質素倹約の文化を中心とした臼杵市のブランド力を高め、これまでの取組の更なる推進に資するとともに、国際協力と経済成長の両面から世界の食文化の発展に貢献できると考え申請に至った。

4. (2) 申請の準備過程について記入してください。(400字以内) (Application form 9 選考基準②)

臼杵市は、2021年2月に臼杵食文化創造都市推進協議会を設立した。これまで様々な分野で個別に取り組まれてきた商工業や農業、教育などの諸事業を創造都市の視点から戦略的に統合し、より強力に実行する事業推進組織である。

協議会には、市に加え、産業界、市民団体、教育研究機関、有識者(発酵食品企業、有機農業者、料理人等)が参画し、オール臼杵の体制で、活動計画の策定・実行・評価を担う。

事務局は市の食文化創造都市推進室に置き、幅広い関連部署が協働する。アドバイザーには、広域行政を担う大分県、創造都市の県内普及を推進する大分経済同友会、SDGsや食文化を専門とする大学教授、歴史料理研究家、物産アドバイザーを迎え、強力な推進体制を構築した。

活動計画のそれぞれの事業には、関連する協議会員が共同で取り組み、必要に応じて各分野の専門家(クリエイター、NPO等)をパートナーに加えている。

4. (3) 自都市が本ネットワークにもたらす資産(歴史、創造的な活動(プログラム、イベント等)、施設、ネットワーク、政策、国際協力活動等)について記入してください。(600字以内) (Application form 10 選考基準③)

臼杵市は、16世紀に日本でいち早く欧州文化を受容した歴史と、江戸時代の侍文化が残る風情豊かな城下町を持ち、そこでは欧州由来や質素儉約を旨とされる郷土料理、日本で唯一残る藩主の本膳料理、禅寺の精進料理、懐石料理を含め、ユネスコ無形文化遺産である「和食」を楽しむことができる。豊かな漁場を生むリアス海岸を持ち、古くから漁業が発達し、ふぐ料理は臼杵を代表する冬の味覚として知られる。江戸時代から栽培される在来作物カボスは生産量が全国一である。

こうした多様な食文化は、恵まれた水と土が生んだ、環境に配慮した農業生産と発酵食品(味噌・醤油、酒類)の産業集積に支えられ、臼杵にとって歴史的にも経済的・社会的にも重要な役割を果たしてきた。

近年、市では、土づくりに適した完熟堆肥の製造や、有機農産物の独自認証制度と学校給食供給により、有機農業や地産地消を推進し、食による健康づくりが市民に浸透してきた。市は、オープンラボを運営し民間の商品開発と事業展開を支援し、民間でも、研究所を設けて発酵技術の革新や、ハラル対応食品の海外市場展開を図っている。教育面では、食品コースを持つ高校やユネスコ活動を行う高校がある。こうした一連の取組はSDGsの達成とUCCNの発展に貢献するものであり、キャンディ(スリランカ)や敦煌(中国)との国際交流の経験も活かし、世界の創造都市との協力を図っていく。

4. (4)本ネットワークの目的達成への貢献(加盟後4年間の中期計画)について記入してください。
(600字以内)(Application form 11 選考基準④)

食による健康増進を目的に、農業者や消費者の理解を広げ、環境保全型農業や有機農業、持続可能な水産業による海底環境・漁業資源の保全や地魚のブランド化・地産地消を支援する(SDGs 2,4,14)。また、醸造・発酵産業を、市の持続可能な開発における基幹産業と位置づけ(SDGs 8, 9)、発酵食文化・技術等の研究開発やアーカイブ化、情報発信を行う。

臼杵で当該産業が歴史的発展を遂げ、有機農業も盛んになったのは、恵まれた水と土によるところが大きい。そこで、山間部で住民や林業者と協力して水源涵養のための森林育成を強化し、循環型社会の実現を図る(SDGs 6,15)。

また、発酵食品や有機農業に関する知見を、世界の創造都市と共有して、情報発信や人材交流を強力に推進し、16世紀以来の国際交流都市としてのシビックプライドを再構築する。

さらに、海外からの関心が高い日本文化(国宝臼杵石仏、歴史建築物)や、映画・工芸など、他の分野と融合した「クリエイティブツーリズム」を展開し、臼杵の食文化を国内外の人々に周知し理解促進を図る活動を推進する。臼杵は、日本の若者が住みたい小さなまちのトップに3年連続で選ばれ、移住者も多い。観光を通じて土地の魅力を体験してもらい、創造的人材の移住を促すとともに、彼らの育成・成熟を図り国内外での活躍にもつなげる。

以上の取組を通じて、UCCNの目的達成に貢献したい。

4. (5)その他、特筆すべき内容があれば記入してください。(「創造都市ネットワーク日本」における自都市の活動があれば、あわせて記入してください。)(400字以内)

今回の取組や申請にあたり、県の強い支援を得て進めている。臼杵市は3万6千人の地方都市だが、県都・大分市(48万人)と隣接し、県内には祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク、世界農業遺産の国東半島宇佐地域がある。国際的観光地の別府・湯布院は多くの外国人観光客を受け入れ、最近では、大分空港がアジア初の宇宙港に選ばれるなど、観光・ビジネス客の増加も期待できる。そこで、県内諸都市とのシナジー創出に努めつつ、臼杵やUCCNの取組を発信する。

創造都市ネットワーク日本には、大分県、大分市、別府市、竹田市、臼杵市が参加しており、創造都市に熱心な土地で、臼杵市は2021年の総会でこれまでの取組を報告した。

また、日本唯一のユネスコ食文化創造都市、鶴岡市とも既に協力関係を築いている。臼杵が西日本のUCCN加盟都市となれば東日本の鶴岡とタッグを組み、日本の食文化の多様な魅力・技術を世界に発信していきたい。